

## 熊本市の二型アクセント

坂口, 至  
熊本大学助教授

<https://doi.org/10.15017/9355>

---

出版情報 : 語文研究. 92, pp.39-48, 2001-12-26. 九州大学国語国文学会  
バージョン :  
権利関係 :



## 熊本市の二型アクセント

一

熊本市の方言アクセントについては、今から六十年ほど前に、平山輝男氏によって調査がなされ、当時の市街域は全域、アクセントの型の区別がない「一型（無）アクセント」であることが明らかにされている。また、熊本市の西方、有明海を臨む飽託郡（当時）の百貫石（ひゃっかんせき）・小島（おしま）・城山（じょうざん）・池上（いけのうえ）・力合（りきごう）・川尻（かわしり）などには、「二型アクセント」が行われていることも明らかになった（『九州方言音調の研究』、一九五二）。これらの地域は、現在熊本市に併合されているので、平山氏の調査当時のアクセントが現在も健在ならば、熊本市には二型アクセントと一型（無）アクセントの二

坂 口 至

種類のアクセントが行われていることになる。

今回、機会を得て、二型アクセント地域の数カ所を調査することができた。その結果は、それらのどの地点でも、平山氏のものとはかなり違うアクセントが行われていることがわかった。以下、その調査結果を報告したいと思う。

二

調査は一九九八年三月と二〇〇一年八月に行った。調査語彙は、とりあえずアクセント体系を把握するに必要な基本的単語に絞った。具体的には次の通り。対応する二型アクセントのA型、B型も併せて示す。

1 拍名詞 12語（一類4語・二類2語・三類6語）

蚊・子・血・戸（一類ⅡA型）

葉・日（二類ⅡA型）

木・田・手・火・目・湯（三類ⅡB型）

2拍名詞 100語（一類Ⅰ五類各20語へ広・狭各10語）

飴・牛・顔・柿・風・金・口・国・酒・竹・爪・鳥・  
庭・箱・蜂・鼻・星・道・水・虫（一類）ⅡA型  
痣・石・岩・歌・音・川・紙・北・蟬・梨・夏・橘・  
旗・人・昼・冬・町・胸・村・雪（二類）ⅡA型  
足・網・家・犬・馬・茎・草・靴・塩・島・炭・月・  
年・波・墓・花・腹・耳・物・山（三類）ⅡB型  
息・板・糸・稻・臼・海・瓜・笠・数・鎌・汁・肩・  
空・種・中・箸・針・船・松・麦（四類）ⅡB型  
秋・汗・虻・雨・桶・影・黍・蜘蛛・鯉・声・猿・  
足袋・露・鶴・鍋・春・蛭・前・窓・婿（五類）Ⅱ

B型

3拍名詞 71語（形類20語・小豆類7語・頭類15語・命  
類10語・兎類11語・兜類8語）

田舎・鱒・形・鱉・霞・着物・鎖・車・煙・今年・  
魚・桜・印・昼・机・初め・鼻血・羊・昔・息子  
（形類ⅡA型）

小豆・女・二つ・二人・三つ・娘・四つ（小豆類Ⅱ

A型）

明日・頭・五日・団扇・男・表・鏡・刀・言葉・白  
髪・宝・鉢・袋・襖・仏（頭類ⅡB型）

油・五つ・命・胡瓜・心・姿・涙・柱・火箸・枕  
（命類ⅡB型）

兎・鰻・狐・虱・雀・背中・鼠・裸・裸足・左・蚯  
蚓（兎類ⅡB型）

苺・後ろ・鯨・菜・卵・鹽・椿・畑（兎類ⅡB型）

2拍動詞 23語（一類13語・二類10語）

言う・売る・買う・聞く・着る・消す・する・飛ぶ・  
泣く・寝る・乗る・引く・呼ぶ（一類ⅡA型）

打つ・書く・切る・食う・住む・着く・取る・飲む・

待つ・読む（二類ⅡB型）

3拍動詞 29語（一類15語・二類14語）

上がる・上げる・当たる・入れる・歌う・踊る・終  
わる・消える・使う・続く・握る・運ぶ・負ける・

燃える・笑う（一類ⅡA型）

生きる・急ぐ・動く・移る・起きる・立てる・頼む・  
作る・投げる・習う・残る・走る・見える・休む

（二類ⅡB型）

4拍動詞 10語（一・二類各5語）





兎・鰻・狐・虱・雀・背中・裸・裸足・左(兎類)  
苺・後ろ・鯨・卵・盥・畑(兎類)

④ 2拍動詞

●○ 言う・売る・買う・聞く・着る・消す・する・飛ぶ・泣く・寝る・乗る・呼ぶ(一類)  
打つ・書く・着く・待つ(二類)  
○ 引く(一類)  
切る・食う・住む・取る・飲む・読む(二類)

⑤ 3拍動詞

●●○ 上がる・当てる・入れる・歌う・踊る・終わる・消える・使う・続く・握る・運ぶ・負ける・燃える・笑う(一類)  
○ 生きる・移る・起きる・投げる・習う(二類)  
○○ 上げる(一類)  
急ぐ・動く・立てる・頼む・作る・残る・走る・見える・休む(二類)

⑥ 4拍動詞

●●○○ 生まれる・教える・聞こえる・始める・忘れる(一類)  
○○○○ 集める・覚える・調べる・流れる・別れる(二類)

⑦ 2拍形容詞

○○ 無い・良い(二類)

⑧ 3拍形容詞

●●○ 赤い・浅い・厚い・甘い・荒い・薄い・遅い・重い・堅い・軽い・暗い(一類)  
青い・狭い・強い・太い・古い・若い(二類)  
○ 熱い・痛い・多い・臭い・黒い・寒い・白い・高い・近い・長い・早い・低い・広い・深い・悪い(二類)

⑨ 4拍形容詞

●●○○ 怪しい・卑しい・悲しい・優しい(一類)  
敵しい・楽しい(二類)  
○○○○ 嬉しい・悔しい・苦しい・詳しい・寂しい・涼しい・正しい(二類)

このインフォーマントは、玉名音調がもつA型、B型の区別を品詞、拍数にかかわらず保持している(元々区別のない2拍形容詞を除く)が、本来B型であるべき単語のかかなりのものがA型に転じている点が玉名音調と異なる。特に2拍名詞の場合、三類の四〇%、四類の五五%、五類の五〇%がA型に変わっている。また、動詞の場合も、2拍が四〇%、3拍が三六%、A型への変化を起こしている。その一方、3拍

名詞や拍数の多い動詞・形容詞は比較的变化が緩慢である。  
これらに対して、本来A型のものがB型に転じている例は非常に少ないという事実も著しい。

次に、これに続くのが(II)の小島下町の男性のアクセントで、以下のような実態を示す。

① 1拍名詞

●▽ 蚊・子・血・戸(一類)

葉(二類)

○▽ 日(二類)

木・田・手・火・目・湯(三類)

② 2拍名詞

●○ ○○▽ (狭) ●●▽ (広)

牛・柿・風・金・口・国・爪・鳥・庭・箱・蜂・鼻

星・道・水・虫(一類)

痣・石・岩・歌・音・川・紙・北・蟬・梨・夏・橋

旗・人・昼・冬・町・胸・村・雪(二類)

足・犬・馬・茎・炭・月・年・波・耳(三類)

息・板・糸・稻・白・瓜・笠・数・鎌・汁・空・中

箸・船・松・麦(四類)

秋・汗・虹・雨・桶・影・黍・鯉・声・猿・露・鶴

鍋・春・蛭・婿(五類)

○○○ ○○▽

飴・顔・酒・竹(一類)

網・家・草・靴・塩・島・墓・花・腹・物・山(三類)

稻・海・種・針(四類)

蜘蛛・足袋・前・窓(五類)

③ 3拍名詞

●● ○○○ ●○○▽

鯉・煙・今年・桜・初め・鼻血・息子(形類)

小豆・女・三つ・娘・四つ(小豆類)

心・涙(命類)

葉(兜類)

●● ○○○ ●○○▽

田舎・鱒・形・魚・印・昼・羊・昔(形類)

二つ・二人(小豆類)

五つ・命(命類)

刀・言葉・白髪(頭類)

背中(兔類)

卵・椿(兜類)

○○○ ○○○▽

霞・着物・鎖・車・机(形類)

明日・頭・五日・団扇・男・表・鏡・宝・鈇・袋・襖・仏(頭類)

油・胡瓜・姿・柱・火箸・枕(命類)

兎・鰻・狐・虱・雀・鼠・鼠・裸・裸足・左・蚯蚓(兎類)

苺・後ろ・鯨・鹽・畑(兎類)

④ 2拍動詞

●○ 言う・売る・買う・聞く・着る・消す・する・飛ぶ・泣く・寝る・乗る・引く・呼ぶ(一類)  
打つ・書く・切る・食う・来る・住む・着く・出る・取る・飲む・待つ・見る・読む(二類)

⑤ 3拍動詞

●○○ 上がる・上げる・当てる・入れる・歌う・踊る・終わる・消える・使う・続く・握る・運ぶ・負ける・燃える・笑う(一類)  
●●○ 生きる・急ぐ・動く・移る・起きる・立てる・頼む・作る・投げる・習う・残る・走る・見える・休む(二類)

⑥ 4拍動詞

●●○○ 生まれる・教える・聞こえる・始める・忘れる(一類)

集める・覚える・調べる・流れる・別れる(二類)

⑦ 2拍形容詞

●○ 無い・良い(二類)

⑧ 3拍形容詞

●●○ 赤い・浅い・厚い・甘い・荒い・薄い・遅い・重い・堅い・軽い・暗い(一類)  
青い・熱い・痛い・多い・臭い・黒い・寒い・白い・狭い・高い・近い・強い・遠い・長い・早い・低い・広い・深い・太い・古い・若い・悪い(二類)

⑨ 4拍形容詞

●●○○ 怪しい・卑しい・悲しい・優しい(一類)  
嬉しい・敵しい・悔しい・苦しい・詳しい・寂しい・涼しい・正しい・楽しい(二類)

このインフォーマントも、玉名音調がもつA型、B型の區別をもっていると考えられるが、(I)のインフォーマントに比較すると、本来B型であるべき単語がA型に転じている割合は、かなり高い。中でも2、4拍動詞と3、4拍形容詞は完全にA型に統合してしまっている。2拍名詞の場合も、三類の四五%、四類、五類のそれぞれ八〇%がA型に変わっ



ている。例外的にA型、B型の区別が明確なのは、3拍の名詞と動詞くらいである。これらに対して、本来A型のものがB型に転じている例は非常に少ないという事実は、インフォーマント（I）と同じ特徴である。

なお、このインフォーマントのアクセントには、母音の広狭が影響を与えているようで、特に2拍名詞の有核型アクセント（本来のA型）の助詞接続形は、第2拍母音の広狭によって音調がきれいに分かれる。また、3拍名詞も同様の傾向にある。

次に、最後の（Ⅲ）の中島町の男性のアクセントは、以下のような実態を示す。

① 1拍名詞

●▽ 蚊・子・血・戸（一類）

葉・日（二類）

木・田・手・火・目・湯（三類）

② 2拍名詞

●○～●○▽（●●▽）

飴・牛・顔・柿・風・金・口・国・酒・竹・爪・鳥・

庭・箱・蜂・鼻・星・道・水・虫（一類）

痣・石・岩・歌・音・川・紙・北・蟬・梨・夏・橋・

旗・人・昼・冬・町・胸・村・雪（二類）

③ 3拍名詞

●○○（●●○）～●○○▽（●●○▽）

田舎・鰯・形・鰹・霞・着物・鎖・車・煙・今年・

魚・桜・印・畳・初め・鼻血・羊・昔・息子（形類）

小豆・二つ・二人・三つ・娘・四つ（小豆類）

鏡・宝・鉢（頭類）

五つ・命・胡瓜・心・涙・火箸（命類）

兎・鰻・鼠・左・蚯蚓（兎類）

薬・椿（兎類）

○○○～○○○▽

机（形類）

足・網・犬・馬・茎・草・靴・塩・島・炭・月・年・  
波・墓・耳・物（三類）

息・板・糸・稻・白・海・瓜・笠・鎌・汁・肩・空・  
種・箸・針・船・松・麦（四類）

秋・汗・虻・雨・桶・影・黍・蜘蛛・鯉・声・猿・  
足袋・露・鶴・鍋・春・蛭・前・婿（五類）

●○～○○▽  
家・花・腹・山（三類）

数・中（四類）

窓（五類）

女（小豆類）

明日・頭・五日・団扇・男・表・刀・言葉・白髪・

袋・襖・仏（頭類）

油・姿・柱・枕（命類）

狐・虱・雀・背中・裸・裸足（兎類）

苺・後ろ・鯨・卵・盥・畑（兜類）

④ 2拍動詞

● ○ 言う・売る・買う・聞く・着る・消す・する・飛

ぶ・泣く・寝る・乗る・引く・呼ぶ（一類）

打つ・書く・切る・食う・住む・着く・取る・飲

む・待つ・読む（二類）

⑤ 3拍動詞

● ● ○ 上がる・上げる・当てる・入れる・歌う・踊る・

終わる・消える・使う・続く・握る・運ぶ・負

ける・燃える・笑う（一類）

生きる・急ぐ・動く・移る・起きる・立てる・

頼む・作る・投げる・習う・残る・走る・見え

る・休む（二類）

⑥ 4拍動詞

● ● ○ ○ 生まれる・教える・聞こえる・忘れる（一類）

● ● ○ ○ 始める（一類）

集める・覚える・調べる・流れる・別れる  
（二類）

⑦ 2拍形容詞

● ○ ○ 無い・良い（二類）

⑧ 3拍形容詞

● ● ○ 赤い・浅い・厚い・甘い・荒い・薄い・遅い・

重い・堅い・軽い・暗い（一類）

青い・熱い・痛い・多い・臭い・黒い・寒い・

白い・狭い・高い・近い・強い・太い・長い・

早い・低い・広い・深い・古い・若い・悪い

（二類）

⑨ 4拍形容詞

● ● ● ○ 怪しい・卑しい・悲しい・優しい（一類）

嬉しい・敵しい・悔しい・苦しい・詳しい・

寂しい・涼しい・正しい・楽しい（二類）

このインフォーマントのアクセントは、もはや玉名音調か  
ら遠く離れ、3拍名詞、4拍動詞のアクセントを除けば、ほ  
ぼ一型アクセントに変化していると言える。2拍名詞の単語  
と助詞接続形に見られる●○○○▽のアクセントはやや奇  
異に感じられるが、拍数の多いものが有核アクセント化が遅  
れる例の痕跡を示すものかもしれない。

#### 四

以上の調査結果を簡単にまとめると、次のようになる。

- (一) 程度の差はあれ、三地点のアクセント共、かつての「玉名音調」の整然とした体系から、変化を遂げている。
- (二) その変化は、無核アクセント（B型アクセント）が有核化することによって、有核一型アクセントへの道をたどるといふものである。

(三) その有核一型アクセントの具体的音調は、●○、●●○、●●○○、●●○○○、●●○○○○、…のような姿である。

(四) 有核一型アクセント化のプロセスは、まず品詞で言えば動詞・形容詞が先んじ、名詞がこれらに続く。拍数で言えば、少ないものが早く、多いものは遅れる傾向にある。

ほぼ以上のようなことであるが、一、三補足しておきたい。まず、有核一型アクセントへの変化と、インフォーマントの年齢との相関であるが、通常アクセント変化は若い世代から進むものであるが、今回の結果は、年齢の高いインフォーマントほど変化が進んでいるという逆の結果を見た。おそらくは、地域差などの他の要因を考える必要があるのであろう。また、一型化が有核アクセントのそれへの道をたどっているという事実も、あらためて考えるべき問題である。一型化は

有核アクセントの無核化によって進行する場合が一般的とも考えられるからである。さらに、この一型化の事実と、熊本市中心部における一型アクセントとの関連も不明である。熊本市中心部の一型アクセントは、2拍語の場合は第1拍がやや高く発音され、3拍以上の語の場合は、中間部が前後よりもやや高く発音されるというものであるが、これは明らかに今回の調査で見られた一型化の方向とは異なる。

今回調査した三地点は、旧飽託郡の中でも北部に位置している所である。今後、中部・南部のアクセントがどのようになっているのか、また今回のインフォーマントより上の世代、下の世代のアクセントはどうかといった点を調査して、熊本市における二型アクセントの一型化の全体像を明らかにしたいと思っている。

(さかぐち いたる・熊本大学助教授)